

## 交流1 総合的な学習の時間（スキル科）

単元名 ヤママユガを育ててみよう

めあて 地域の方の思いを知って、ヤマユガを育てよう。

鶴二小でヤマユガの飼育が始まったのは、約8年前。長野県の小学校でヤマユガを飼育する本を読んだゲストティーチャーが、エサとなるクヌギの木が豊富な能ヶ谷なら、きっと鶴二小の子供たちもヤマユガを育てることができる！と思い、小学校に声を掛けてくださったことがきっかけでした。それ以来、毎年4年生がヤマユガのお世話をしています。

## 5/16 ヤマユガ飼育の達人にお話を聞いてみよう



ゲストティーチャーはどなた？  
▶ お子様へ聞く  
昨年度のりこだよりを読む

お二人は、能ヶ谷の自然を守る活動を続けてこられました。最初に、昔の鶴川の様子や里山の大切さを、タヌキの話など絡めて話してください、子供たちは初めて聞く話に興味をもちました。次に、里山に生息するヤマユガと人とのつながり、マユを用いた織物についても紹介してくださいました。

ヤマユガの飼育は、都会ではできないこと、里山の風情が残る鶴二小だからこそ活動です。子供たちは、これからヤマユガの一生を見守るのだと、気を引き締めていました。

(昨年度の様子は、2022年7月号NO.1へ!!)

## ヤマユガの成長記録



子供たちと先生方のお世話のもと、ヤマユガは卵→幼虫→マユへと形を変え、順調に育ちました。夏休みには、試験的に外で飼育してみました。外で風や光を感じたヤマユガの幼虫は、屋内よりも活発に動き回ってスクスク育っていました。マユの色は、屋内飼育ではクリーム色が多く、外飼育では葉の色に近い黄緑色になるものが多かったようです。育ててみて初めて分かることでした。大人でも勉強になります。※このクヌギの木は、昨年度ゲストティーチャーから苗木をいただき、学童横の場所に移植したものです。

## 11/30 ヤマユガのマユから糸を紡いでみよう



ゲストティーチャーはどなた？  
▶ お子様へ聞く  
昨年度のりこだよりを読む

マユから羽化した成虫は卵を産みました。最後まで観察できたので、次はヤマユガが残してくれたマユを使って糸を紡いでみました。

最初にゲストティーチャーから、かたいマユから糸になるまでの手順を動画を交えて教わりました。次にコマを使った紡ぎかたの実演です。ふわふわにほぐしたマユが、コマの回転とともにあっという間に毛糸のように紡がれていく様子に、子供たちから歓声があがりました。

そして自分たちの番です。コマを使った糸紡ぎは難易度が高いため、子供たちは足の上で手を滑らせる方法で糸紡ぎを体験しました。意外な方法で簡単に糸を紡ぐことができ、驚いていました。

(昨年度の様子は、2023年1月号NO.3へ!!)

## EPISODE



ひとつのマユから紡いだ糸の長さは？先生の身長と比べてみました。マユの個体差や紡ぎ方にもよりますが、今回はレース糸ぐらいの細さで220センチでした。

しっかりと力を入れて、一方向に手を滑らせます。子供たちは、ふわふわのマユが糸になる瞬間を体験し、感心していました。

## 12/1 ヤマユガのマユからできた糸で手織りをしてみよう



マユが糸になることを知った子供たち。ヤマユガ飼育の達人や保護者の方たちにもご協力をいただきながら、手織り体験をしました。

最初に、ヤマユガは育てれば簡単にマユがとれるわけではなく、貴重な糸であることを確認しあいました。続いての手織り体験では、ダンボール製の手作り織り機で、一人一人が丁寧に織り進めました。織ったものがほどこけないようにするために糸を結ぶ細かい作業があり、保護者の方に手伝っていただきました。最後に経糸の上の部分の輪っかにしてストラップの出来上がり。下の房になる部分を三つ編みにしたり、ちょうちょ結びにしたりと、アレンジを加えてオリジナル感を出していました。出来上がりはとても小さな織物ですが、子供たちは世界にひとつだけのふわふわにうっとり、大満足でした。

ゲストティーチャーが、ある時林でマユを拾ったことがきっかけで、マユから織物になるおもしろさに気が付きました。マユほしさに、なん百匹もの幼虫を家で飼うことになったこともあったとか。そして飼育の達人になり、この「おもしろい！」を鶴二小の4年生に伝えてくださいました。

卵から始まり、最後は織物になる不思議を体験して、目を輝かせていた子供たち。自然や生命の不思議も学びながら、自分たちが感じる「おもしろい！」をどんどん増やしていってほしいと思います。

(昨年度の様子は、2023年1月号NO.3へ!!)

## EPISODE



緯糸を引っ張りすぎると、経糸がよれて四角に出来上がらないので、やさしく緯糸を通します。そして紙のおさでトントンと打ち込みます。みんな上手です！

小さくてもたとえどんな形でも「自分で作った」という達成感もあり、とても素敵な笑顔の子供たち。思い出と一緒に大切にしていってね。